



美味しいと思ったグルメに投票する

食フェスも開催!!



※会場レイアウトは多少変更になる場合があります
※駐車場はすぐ満車になる恐れがあります

なかま遠賀川フェス

【日時】2017年2月11日(土)
10:00~19:00(雨天決行)

【場所】福岡県中間市
中間市役所前遠賀川河川敷

【アクセス】
JR 塩生駅から徒歩5分の市営野球場より会場までシャトルバスを運行(会場駐車場はすぐに満車になることが予想されますので、公共交通機関で来場ください)

【内容】
40店舗の飲食ブースのグルメに投票する参加型「食フェス」、プロミュージシャンのライブを楽しむ「音楽フェス」など楽しみ満載!

主催/NPO法人中間市地域活性化協議会
TEL 093-243-3877
(月・水・金 10:00~17:00)

**老若男女が楽しめる
さまざまな催しを企画**

今回の目玉は「音楽フェス」と「食フェス」。全国的に有名な「DAMP」「erika」、中間市出身の「榎本康太」などのアーティストがゲストとして登場します。肉グルメ、ラーメン、地元店舗などいろいろな種類のメニューを楽しめる「食フェス」は、店舗に投票してグルメを決定、来場者が参加して楽しめる内容になっています。

「第1回目なので、とにかく市民の皆さんに来ていただくこと、イベントを知ってもらえることが大事だと思ったので、有名アーティストを招いて賑わいを出したいと思いました。若い人だけでなく年配の方にも楽しんでもいただけるよう、歌謡曲をメインにしたカラオケ大会「歌バト」なども企画しています。」と富田さん。その他世界遺産の遠賀川水源地ポンプ室を巡る「フットバス」やカップルで参加する

「カップルミッション」など楽しい催し盛りだくさんイベントを影でサポートする、ボランティアも随時募集中だそうです。子育てからお年寄りまでさまざまな年代の方にボランティアを募集しています。中間市で開催されるイベントに若い頃から携わること、郷土愛が生まれてくるんじゃないかと思ってるんですよ。お年寄りには若い方と交流することで、新たな生き甲斐を感じて欲しいと思います。北九州の小倉証園太鼓のような大きなお祭りにはしたいですね。お祭りに対する地元民の想いや結束力ってとても強いじゃないですか。伝統を大事にしようという想い。なかま遠賀川フェスもこれから5回、10回と続いて伝統になればいいなと思っています。」と富田さん。

NPO法人中間市地域活性化協議会ではこのイベントを皮切りに、郷土愛を感じてもらえるよう、子どもを対象とした遠賀川体験ツアーや遠賀川で獲れたフロッグバスを使った名物グルメなどを企画。遠賀川や中間市の魅力がどんどん発信されていくのが楽しみです!

みなさんも一緒に、第1回目となるイベントを盛り上げましょう!

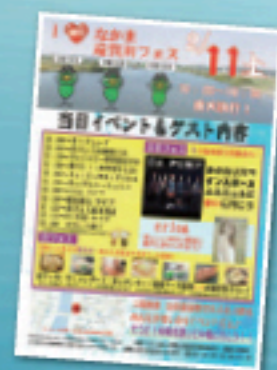


巻頭特集 仲間を誘って中間に行こう!

2017年 開催
2月11日(土)

LOVE なかま遠賀川フェス

遠賀川河川敷で開催される食と音楽のイベント。「中間市」と「遠賀川」に親しみを感じてもらうことを目的に、中間在住の若きメンバーが立ち上がりました。そのイベントへの想いと意気込みをインタビュー!



中間市への郷土愛を感じてもらいたい!

福岡県北部、筑豊地区から北九州市、中間市、遠賀郡を流れる雄大な遠賀川。その河川敷を舞台に、中間市では初となる食と音楽の一大イベントが開催されます。イベント名は「LOVE なかま遠賀川フェス」。その名には主催者の「中間市への愛」がギッシリと込められています。

「このイベントを開催する目的は、たつてシンプル。中間市のみならず、もっと郷土愛を感じてもらいたいんです。」と熱く語り始めたのは、イベントを主催する「NPO法人中間市地域活性化協議会」代表の富田誠二さん。協議会の目的はその名の通り、中間地域を活性化するための催しや教育に関する活動を行うこと。昨年10月1日に発足したばかりで、現在は40歳前後のメンバー16人が所属しています。地域活性化に関する活動を始めると、メンバーが注目したのは中間市が抱える課題と問題でした。

「中間市は元々医師で栄えていた土地でしたが、エネルギー革命により市内の炭坑は全て閉山。労働者は中間を離れ、人口は減少の一途をたどりまして。そこで北九州市のベッタタウンとして住宅地の開発が進み、移住者で人口は徐々に回復。つまり、昔からこの地で暮らす地元民が少ないんです。『中間市にふるさと』と思ってる人が少なく、親世代だけでなく子ども世代にもその意識は受け継がれ、どんどん中

間への愛着が薄れていっているのではないかと感じています。

NPO法人を設立し、「中間市を活性化するためには何が必要か?」と話し合っているうちに、そういう背景があるからこそ郷土愛や地元愛がもっと必要ではないかということに気づきました。郷土愛を持ってもらえるには、今ある資源を見つめ直し、クローズアップする必要があると思っただけです。そこで私たちが着目したのが、遠賀川でした。僕は中間で生まれ育った人間ですが、自分も含めて周囲の人たちは遠賀川に対してあまり愛着を持っていないというか、場所によっては水が汚れているし、広くて深いから近づくのが怖い。そんなイメージを持っていた。そこで、地域活性の第一歩として、中間市が持つ資源の遠賀川に愛着を感じてもらえるよう、川が見える河川敷で大きなイベントを行いたいと考えました。」と富田さん。

遠賀川河川敷ではいろいろなイベントが開催されているものの、ここまで大掛かりなのは今まで開催されなかったそう。第1回目ということで、周囲からの期待も高まります。

楽しい1日になること間違いなし!

